

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	北広島町立壬生小学校	校長氏名	松島 尚志	生徒指導主事氏名	鈴木 久恵
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『自己指導力を高める取組～運動会、マラソン大会を通して～』

取組のねらい『自分を内省する力』

一人一人の児童が自らの課題を持ち、自己を振り返りながら学校行事（運動会やマラソン大会）へ取り組む中で、自分を内省する力を伸ばすとともに、自己指導力を高めていくことができるようにする。

取組の具体的内容『失敗を成功にする』『自分の成長をたしかめる』

【運動会】

○目標を設定し、それに対する振り返りをするためのワークシートを生徒指導部で作成し、全校統一して取組む。

（ワークシート活用の手順）

①運動会テーマ「輝け！壬生小魂～正々堂々 真向勝負～」を大きな目標として、自分はどんな運動会にしたいかを考える。

【自分の目標の設定】

②そのために自分は何を頑張るかを考える。

【具体的な行動目標の設定】

③本番までの間で、4回程度（週2回）振り返りをさせる。

【失敗を成功に】【自分の成長】

具体的な行動目標ができたか、できなかったか、それはなぜか。その後、具体的な行動目標を変更したり、付け加えたりすることもある。

低学年については、実態に応じて「◎・○・△」などの記号を使うなどして評価させる。

④運動会が終わった後、これまでの振り返りシートを見ながら、運動会の中での自分の成長、がんばったことを作文にまとめる。

【自分の成長】

○ワークシートや行動観察を元に、児童の活動を評価し、個々の児童へ或いは学級全体へ指導・助言をする。

○運動会后、行事アンケートを実施し、評価を行う。（学校自己評価の評価項目とのリンク）

【マラソン大会】

○運動会の反省を受け、「友達との関わり」「友達のよさを見つける」ことについて意識して取り組めるよう、全職員で意識統一するとともに、児童にも目標を考える際の視点として示した。

○運動会と同様に取組途中（試走）で自己を見つめることができるようなワークシートを用意した。

マラソン大会ワークシート（指導者用）

取組の課題・創意工夫『繰り返し』

○ワークシートの工夫

- ・一枚のシートで取組の経過が見えるようにした。
 - ・児童も担任も負担にならない程度のものになるように留意した。
- 実施後、週に2回で4回程度としていたが、記入のスペース等も考えて、3回くらいの振り返りが良いのではないかという反省もあった。



○不登校気味の児童に対する支援

- ・ワークシートをつかいながら、学校行事にどのくらい参加し、がんばれたかを毎日自分自身で確認をする活動を行った。
- ・1時間練習に参加するごとにシールを貼った。(運動会)

取組の成果（効果）『評価・支援につながる』

○児童実態の把握と評価

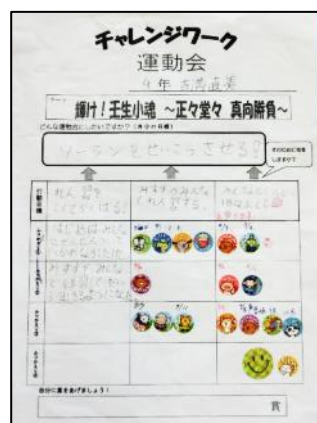
- ・ワークシートに書き出すことで、それぞれの児童がどこに課題を感じているのか、何をがんばろうとしているのかをつかむことができ、児童理解につながった。
- ・振り返りをする際、抽象的な言葉でしか表現していない児童に対して、「どんな場面でできたのか。(できなかったのか。)」 「目標に近づくためには、いつ、どのようなことをするのか。」など具体的な行動をイメージさせるような助言ができた。

○自分を内省する、具体的な行動目標をイメージ

「目標はだいたいできた。でも、マイナス発言をしてしまった時があった。」と自分の姿を思い返してみたり、「係の仕事がんばる。」とだけ目標としていた児童が「応援のときに低学年へ声をかけるようにする。」と次への具体的な行動目標をイメージすることができたりしていた。

○不登校気味の児童への支援

- ・できたことをシールを使って評価をしていったことで、自分の頑張りが視覚化され、また「シールを貼れた」という充実感につながった。結果、出場種目数も当初の目標よりも多くなり、「できた」という自信を持つことができた。(運動会)



今 後 の 展 開『自己表現、自己実現』

- ・ただ行事を成功させるというのではなく、それまでの過程が大切であり、失敗もしながらも次にどうすればいいのか考え、挑戦していこうとすることに価値があることを、児童そして指導者が意識しながら取組を進めていきたい。
- ・自分の思いを言葉で表すことに課題がある。自己を振り返り、自分の中の思いを出していく機会を多くしていくことで、漠然とではなく、具体的に自分の思いを表現できる力をつけていきたい。
- ・学校行事だけでなく、係活動・委員会活動などにおいても活用していくことを検討する。

他校へのアドバイス『繰り返し』

- ・児童も初めのうちは、なかなか書けないと思います。これも繰り返し続けることで、どのように振り返ればいいのか見えてくるとおもわれます。ポイントとしては、5W1H (いつ、どこで、なにを、どのように、どうしてできなかった、どうしてできた) を意識して考えさせると良いのではないかと考えています。